一般質問



議席１番
間瀬 宏宣 議員

T-PLACE跡地の今後について

問 **現在、地権者との十分な合意形成が図られていないまま、債権者側において跡地利用に向けた動きが進められているとのことだが、今後町は、どのように対応していくのかを伺いたい。**

答 T-PLACEを運営していたファミリープラザ事業協同組合は、県からの資金償還の目途が立たず令和7年9月に破産手続きを開始し、同年12月の店舗退店をもって同施設は閉店となっております。跡地は敷地の大部分が借地であり、中心市街地に位置する活性化の重要拠点であることから、町は県や破産管財人、地権者等と有効活用について協議してまいりました。町主催の説明会では、事業者参入を促すため当初5年間の借地料を固定資産税相当額に抑える旨の理解を得たほか、複数デベロッパーへの意見を伺ってまいりました。

任意売却の買付募集に対しては、町が解体・撤去を前提に1億3,600万円を提示した一方、水戸市の事業者が既存建物をリフォームして存続させる前提で2億7,200万円を提示し、現在同社が買受候補者となっております。

しかし、建物存続には町を含む17名の地権者全員の合意が必要です。組合破産以降、借地料が支払われないまま税負担のみが続く状況を受け、地権者代表からは築約30年で老朽化した建物の撤去と新たな施設整備を求める要望書が町へ提出されました。地権者の一人でもある町もこの意向を重く受け止め、解体・撤去を前提とした土地利用を県知事や破産管財人へ要望しています。一方、県は債権回収の観点から建物存続前提で手続きを進めていますが、町は地権者の意向やまちづくりの視点が不可欠であると主張してまいります。

町は目先の利用だけでなく10年、20年先を見据え、地権者の皆様と連携しながら、この場所が再び中心市街地のにぎわい拠点となる土地利用の実現に向け、責任を持って対応してまいります。

（副町長）



議席２番
染谷 直人 議員

国際的教育環境の充実について

問 **境町の子どもたちが、より身近な環境で国際的な学びを深めることを念頭に、国際バカロレア教育を実践する教育機関との連携やサテライト的な教育拠点の誘致など、新たな学びの場を創出することについて、町の考えを伺いたい。**

答 町では、小中学校で培った英語力や国際感覚を、高校年代になっても継続して伸ばせる環境づくりを検討しています。その一つとして、探究的な学びや国際的な視野を育む国際バカロレア（IB）教育に注目し、既存の国際教育機関との連携やサテライト校などの誘致を研究しています。ぐんま国際アカデミーからも、町が施設環境を整えれば連携の可能性があるとの提案がありました。実現には、運営主体や施設整備、生徒数の確保、県立高校との関係、財源など多くの課題があります。今後は、企業版ふるさと納税やクラウドファンディング、施設運営による収入なども活用し、町の負担をできるだけ抑えながら、首都圏からの移住促進にもつながる教育環境の整備を目指して検討を進めてまいりたいと考えております。

（町長・教育長）

中学校の制服について

問 **①生徒が性別にかかわらず、スラックス等を含め、自分に合った制服を自由に選択できるよう、制服の選択肢を広げることについて、町の考えを伺いたい。**
②民間ブランドとの連携なども視野に、生徒が着たいと思える魅力ある制服の検討について、町の考えを伺いたい。

答 町では、中学校の制服について、性別に関わらずスラックスやスカートを選べるようにするなど、多様性や防寒性、動きやすさに配慮した見直しを検討しています。制服は毎日着るものだからこそ、機能性や価格だけでなく、生徒が愛着や誇りを持てるデザインも大切です。今年度リニューアルした体操服では、民間ブランドのノウハウを取り入れており、制服についても同様の連携を視野に入れます。今後は、生徒や保護者へのアンケートを行い、必要な機能やデザイン、価格帯などの意見を聞いた上で、学校やPTAと協議します。現在のセーラー服にスラックスを加えるだけでなく、ジャケットなども含めたリニューアルを前提に、生徒が着たいと思える、時代にふさわしい制服づくりをスピード感を持って進めてまいります。

（教育長）